

う。この先は、時々水が伏流になるなかを進む。8:20完全に水が濁れる。谷をつめ、8:45稜線に出る。

F.以外には、さしたる興味のない、やぶの多い小沢というのが、この沢の印象である。

(記・)

[タイム] 出合(6:50)→稜線(8:45)

出合下沢 (飯沢)

無名沢 (下降)

1987年8月30日

L

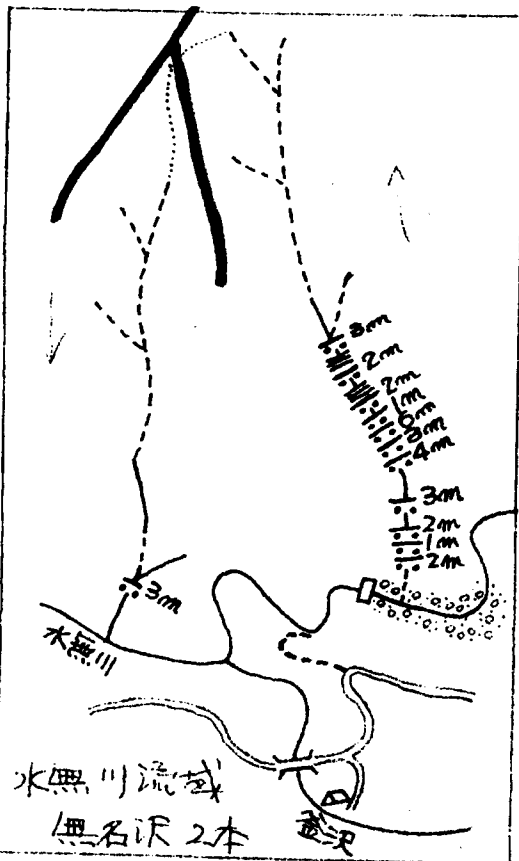
下降開始8:55。尾根から5分程のやぶこぎで沢に降り立つ。しかし沢は濁れて水は無く、大部分がやぶに覆われて、悪戦苦闘を強いられる。

下降を開始して30分、ようやく沢床に水が出てくるが、それでもやぶのひどさに変わりはない。沢が終わりになるころ、ようやく3mの滝が現れる。

左岸の岩の間から湧水がしたたり落ち、それを合わせて一定の水量となったところで、水無川の本流と合わさる。

(記・和泉 功)

[タイム] 下降開始(8:55)→沢(9:00)→水無川本流出合(10:05)



~~出合上沢~~
出合下沢 (飯沢)
無名沢

1987年8月30日

L

昨日泊まった釜沢出合のテン場から、水無川本流ぞいの林道を歩いて、右カーブのところから水無川に降りる。砂防工事の時の作業道がブッシュにおおわれて残っていたので、それを利用する。地図に記されている砂防ダムの左岸を乗り越え、水無川は、広い河原となっている。目的の沢は、砂防ダムのすぐ上で右岸から合流するが、私達は見逃して先に進んでしまった。多少水無川を遡ったと